

2008年(平成20年)9月12日(金曜日) 日刊

詳報 第3回建設



ランナーフォーラム

⑤

「環境/バイオマス分科会」では、森林や建設

「お互いの技術を補完し合い、目の前にある課題を解決していくことが大事だ」。

同研究会は、1983年から森林事業の発展を

●環境/バイオマス分科会

目指し活動を展開。25年を  
経て、ゼネコンだけでなく、  
法面業者、建機メーカー、  
不動産業者などさまざまな業

「お互いの技術を補完し合い、目の前にある課題を解決していくことが大事だ」。

地域資源の可能性に着目

市の大森孝宗あぐり事業部長は農業進出のきっかけを、こう振り返った。当初

60%でスタートしたが、高齢化した農家が農地を貸して、くれるようになり、本年度までに50%に拡大した。

「建設技能を維持するたり、説得力になっていく」ともできるのではないかと、



休耕田を復活し田植え (みやぎ未来バイオ合同会社)

上げが伸びた。また、知名度が上がることで、材料となるウッドチップの取引先が関東圏まで広がった。

新たな展開として考えているのが排木材を活用した木質エタノールだ。

「建設技能を維持するたり、説得力になっていく」ともできるのではないかと、

「建設技能を維持するたり、説得力になっていく」ともできるのではないかと、

日本には建設業が必要です